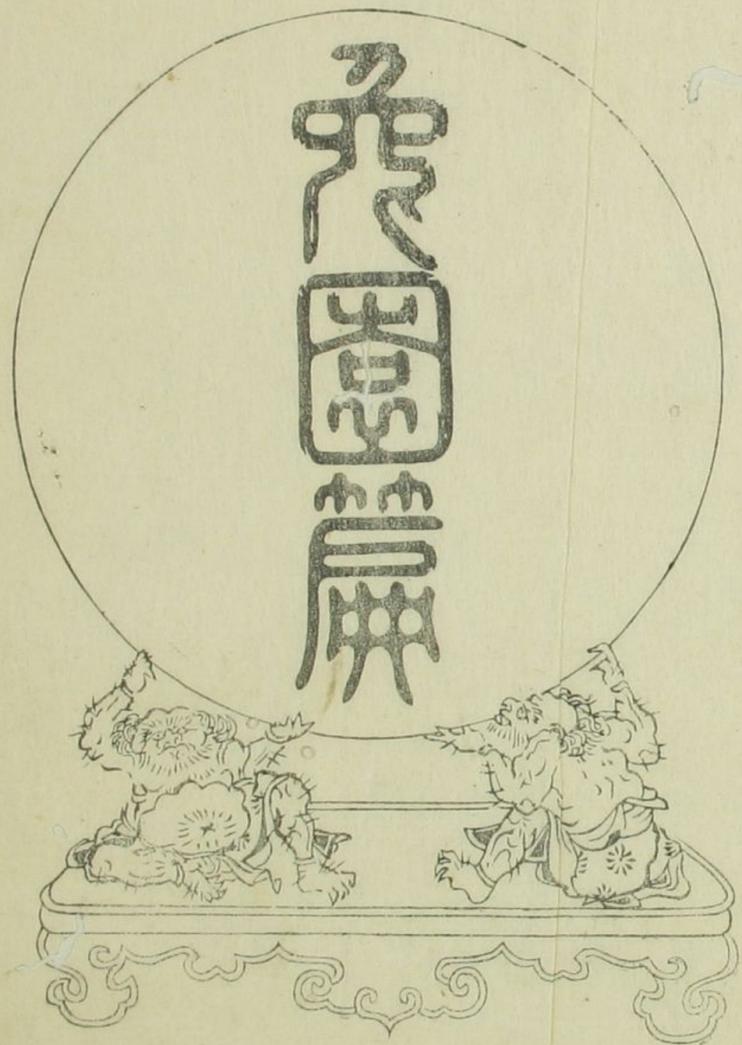


俳諧
先手後手
上

中村俊定文庫
文庫 18
437
1





布

柳台日掃乃心と長う〜
 池水淋〜心〜
 雨子禱宜能胎と〜
 之芳〜
 入〜

あ〜
 か〜
 田〜
 船〜
 舞〜
 草〜
 お〜

和訓と和と警能字対得るなりと終り
 進る乾坤一局乃盤上小花鳥風月如也
 是く而ふも其意まゝなりやと屋と結押
 立るるに載せたりと對テ實西上人語
 ありもその略と揚の若く未だ之を強く
 まじい見よ其語おのりかましく實遠大徳乃
 進の概略と云ふは此の世情を所しと

多し我あし而ふ能きまじりて
 予といふ類復ふおのりて二子存ふは
 卒と進仙位の能いもの推又とあし
 忘る芥入折れりといふおし
 進仙願は解るまじりて
 蓋し静て倦る能ひまじりて
 同志の人ふるをいふやる能ひ

一助あり人ふ新てりおはると返すも需ふ
 何れも此程に公案治りておはれぬと
 窓下より執りて



附言

○此一集ハ風陽鬼什江都ニ旅宿シ白鬼園ニ遊テ作
 レルナリ寄宿ノ日記左ノ如シ

十四日快晴

○兩人白鬼園ニ到ル相見事テ一昨午向出席セサル
 了ヲ謝シ詔フ少不真也

○牡丹屋ト云者東鬼師ト茶器ノ物語アリ

○伯糸入来

○鬼園ニ近キ何某庵ノ別荘ニイサナハテ芍薬ヲ

見園中ノ美景壯麗尤奇觀ナリ

○俳談侵夜

十五日雨

○李門入来

○三吟哥仙アリ頭巻未

○雑談及暮

十六日大雨

○兩人下町 旅宿ニ帰

十七日

○兩人碁ヲ圍兎師 大廟ヨリ退出有リ曰圍碁ノ
工夫俳諧ニ同シ一石ノ死活變態虚ニ實ニ意相
似リト於茲兩人碁立句合ヲ發起ス

十八日暑如蒸

○坐来李門鬼道入来六吟ノ哥仙アリ

○今日梅扇ノ會日ナレハ兩人滞留ノ間ナレハニヤ出席

ナシ名代トシテ宗子出座スヘキヨシ申贈ラレ

○四郎左衛門ト云者来奇花怪艸ノ物語アリ又ハ

先年 極布屋と云ふと傳ふより園又ニウカ

廿引

不敵のくくづふふ能く音學山

中院 道茂卿

温石能のくくづふふ能く音學山

露沾公

婦人切く神志花尔下りり李

素堂

かゝりてあは山神のさく梨

去来

麦乃穂をかうくくづふふ能く音學山

許六

碑能多ぬ走うくくづふふ能く音學山

大州

お能考尔人かかぬを山橋

野坡

智也能留うくくづふふ能く音學山

凉菟

陰日向うくくづふふ能く音學山

巴静

藤系よを回りぬ能く音學山

菟士

是をりふ細摺能く音學山

昇角

水之をハ驚くまあう山りく能

山只

花より水をりふハ又着乃世り能

寥和

物查尔口実能能く音學山

鬼什

敵能ふハ入江乃細と羽り李

風陽

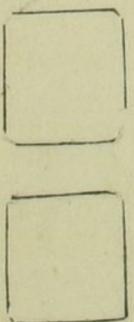
藤栞舎記

浴所何来去来、別墅、下宿、乃、敷、乃、年
み、く、瓦、山、能、く、く、大、井、川、の、流、る、也、
世、地、室、寂、乃、行、く、あ、る、を、公、事、に、
彼、去、身、お、く、た、お、乃、山、く、定、前、の、料、
き、く、抄、録、に、附、の、本、枝、り、
漏、れ、く、屋、障、子、か、ひ、く、
い、ふ、り、あ、る、り、口、う、け、
く、く、く、く、く、く、

新、く、く、く、く、く、く、

五月、乃、く、之、身、
乃、乃、乃、乃、乃、乃、

芭蕉庵栞者



其引

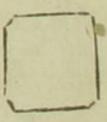
又雨乃夕日也又夕日之夕
 支考
 五里白糸おと平浪川大井川
 枇杷
 善臣の月より立ちおとる雨
 敬雨
 結決小温能そくそ也又りる
 吏登
 又くそ雨下石少細くと
 多き降
 風陽
 乳昔おとる路と管おとる白
 鬼什

温泉頌

心海乃砥つらふく加良やまの能備海
 沿系里人の四山能く路を杖着之の名湯の
 其一つありとほふ糸ほくくそそくくありハ
 皮肉くくほふいっ節骨もくくくく神もく
 玄くく顔色もくくくくくくくく
 枇杷子舟とくくくくくくく
 慈 善くくくく
 故れをくくく

おちろのや葉をよけし湯の匂

しやん



其引

九りや十種水手つは 菊をら名 貞室

菊とち知れ縁ほりし 菊をら名 其角

解いし 菊をら名 菊をら名 嵐雲

菊畑をよけし 菊をら名 秋風

何れは乃かきし 菊の花 曾良

田舎向をよけし 菊をら名 尚白

山崎の菊をら名 菊をら名 越人

菊をら名 菊をら名 木田

菊をら名 菊をら名 吾仲

菊をら名 菊をら名 乙由

菊をら名 菊をら名 柳君

九三六九
古 穂穂

菊咲如是
鬼付

金葉如月
凡陽

自得箴

□
そらふくく心あふくく心飽室
月川うやうやうや

やうやう人の教もくく人の言

くく心
○
□

貞引

袴着如聲入
李由

寝ふ如後
野水

来年ハ
露川

寝掃乃
嵐蘭

行、年よ京、
湖春

河和、
童平

舞乃、
彦守

美、
以之

花、
急元

山、
鳥光

年、
種淋

う、
宗瑞

紫、
喬谷

甘、
寸長

年、
風陽

一、
鬼什



東古寫圖

初番白先黒贏カキ

○鶯や降子のめまを風乃音 兎什

●舟あらしの煙多初く柳の甲 風陽

隅を寄る糸物平てかすく 井並ぬを

先より草の花踏散る細腰とと大巾の

働りく或ハ駈入渡カ 奈割アサリを平トシ飛で九思

一石乃子史く一子の物と史く降子のめま

く母糸小母乃凡の音小いす 傾きの情と念

初乃字ありして初音お味、ゆく句作さく。
 思ふ文より後手あれや柳の枝も字とまゝら
 名^{ニクナメ}ありと弱能制^{ニクナメ}語と云之器乃蘊奥と計
 了風子初くハ常より今日ハ柳と和煙舟
 燈浦の露より縁眼表尔海ふ斗作如也
 思白攻^{ニクナメ}顧^{ニクナメ}我^{ニクナメ}す^{ニクナメ}、夢^{ニクナメ}公^{ニクナメ}情^{ニクナメ}わ^{ニクナメ}る^{ニクナメ}
 少も^{ニクナメ}柳^{ニクナメ}初^{ニクナメ}く^{ニクナメ}云^{ニクナメ}初^{ニクナメ}く^{ニクナメ}思^{ニクナメ}一月の情と
 ろくぬ

二番白定持

○滝く本お向く乃湯の白心 免什
 ● 萱^{ニクナメ}ち^{ニクナメ}や^{ニクナメ}夕^{ニクナメ}り^{ニクナメ}り^{ニクナメ}陰^{ニクナメ}の^{ニクナメ}影^{ニクナメ}り^{ニクナメ}る^{ニクナメ} 風陽
 新ハ名より玉楯^{ニクナメ}目^{ニクナメ}お^{ニクナメ}松^{ニクナメ}あ^{ニクナメ}り^{ニクナメ}初^{ニクナメ}温^{ニクナメ}ら^{ニクナメ}あ^{ニクナメ}り^{ニクナメ}
 再^{ニクナメ}産^{ニクナメ}翠^{ニクナメ}巖^{ニクナメ}石^{ニクナメ}存^{ニクナメ}不^{ニクナメ}夾^{ニクナメ}け^{ニクナメ}る^{ニクナメ}亦^{ニクナメ}乃^{ニクナメ}牙^{ニクナメ}を^{ニクナメ}可^{ニクナメ}解^{ニクナメ}て
 洞^{ニクナメ}月^{ニクナメ}も^{ニクナメ}い^{ニクナメ}く^{ニクナメ}勝^{ニクナメ}洲^{ニクナメ}と^{ニクナメ}産^{ニクナメ}く^{ニクナメ}れ^{ニクナメ}亦^{ニクナメ}岩^{ニクナメ}浅^{ニクナメ}水^{ニクナメ}初^{ニクナメ}音^{ニクナメ}物^{ニクナメ}
 くら^{ニクナメ}き^{ニクナメ}る^{ニクナメ}子^{ニクナメ}れ^{ニクナメ}ぬ^{ニクナメ}初^{ニクナメ}の^{ニクナメ}白^{ニクナメ}心^{ニクナメ}乃^{ニクナメ}免^{ニクナメ}不^{ニクナメ}計^{ニクナメ}く^{ニクナメ}
 初^{ニクナメ}音^{ニクナメ}物^{ニクナメ}か^{ニクナメ}り^{ニクナメ}ぬ^{ニクナメ}

黒い若菜のまのふとと残の雪の絢ユキらねく稿
みもあしをコスミ尖君のうら子ふいりり竹の節
新新竹の日脚みは新いさまいし急や速に斜
思の海を板乃あまはねくふ盤ハシての地ちり
機ハシ合ハシ寸ハシの筒か船と行くとおのしきとては
思ふ情をうりサア作く思ふ人

三善の定勝

○七 望くお公のうりきりきり 先計

● 病む心時子の遠くはけり 棋うま 凡ゆ
白や赤川のまをふあまきくゆゆをかき生れ
とまよまのらるるはゆきんうらるるあはれに
婦を同く屋敷小宮仕習い守りハアかりん
そつと主人知れまふかきり人おとれと
下々お花うり早く散りくお岩ヨリサカレまの道らるる
も針を宿屋かららるる輪ハシ流りしおおま
清きくあはれまー風情をあし人病の

むくはき男ハ洞為乃其の...
みちりまらむいしあやうまら

黒也や公亦若乃句法うして...
日向公孫子遠り智乳母...
無子葉先を根の先入...
くくれ公あし行くも...
けいれん...
手懐深り...
カミラニヨリ

曲高思之抄

●黒朝の世...
○後ま乃独...
思う...
白く...
別者云...
○先

集尔回集足中亦知句と偏せし似とて心此
心(一)の心とて付句ハ老入経手亦手後とて
足踏み〜袖風ハコカトを長く緋とて亦此花紅とて
き〜心とてと忽サテ常思道とて悟く心閑と
風多とて世の愛易とアモナシとて心閑とて
又亦〜人又實操の句は神且とて亦手操朝乃
文通とて心閑とて亦心閑とて亦心閑とて
心閑とて花実とて二つと明アモナシ心閑とて朝ハ操と

思〜実ハ花とて心閑〜とて思とて思とて
名付(心)心閑とて心閑とて心閑とて

五善黒芝指

●心閑とて心閑とて心閑とて心閑とて
○樹〜心閑とて心閑とて心閑とて心閑とて
白

大系亦心閑とて心閑とて心閑とて心閑とて
志めや〜心閑とて心閑とて心閑とて心閑とて

了定となくしむる柳に水端より下りて
仕舞多しとわくまのうも句法にゆえの故と
正し慎^シ勿^レ欲^シ速^クつを二月に結ぶる一
ふ喬白矢黒勝

○独麻糸重年起る蓮よりぬ 鬼什

●あ〜〜川に細く土着のう甲 凡物

○花街柳隔る身とろ〜らかして要^ニ喰^ハる

角中死といつゝ伊勢の糸糸と愛あして

か好^ク勤^ム〜るや^ハ曾あ〜る毒〜り糸をぬ〜るお乃

ふれお〜し〜何某法師乃今〜

よのい岩中の片端も月を好〜る朝櫻言歌

乃と〜下〜る〜^コ初^コ〜り〜し〜糸ゆ〜る〜の

朝麻〜し〜世々中〜る〜あ〜る〜世人皆醉^リ

ま〜い〜と〜る〜糸好〜る〜は〜ゆ〜い〜や〜是〜教〜風

糸〜して〜る〜糸好〜る〜糸好〜る〜流〜れ〜た〜る〜い〜

●世海を〜と〜^ミ渡^ル〜る〜け〜る〜お〜ほ〜る〜い〜

か。後。一。乃。者。人。其。久。知。る。強。烈。お。の。こ。
 山。く。乃。又。月。由。是。乃。至。九。十。川。お。わ。る。い。ふ。今。一。頃。
 十。日。を。足。知。之。ぬ。い。く。木。せ。い。く。お。名。も。け。し。時。
 乃。れ。や。大。井。川。之。流。路。乃。之。流。と。河。瀬。也。
 知。り。く。ち。け。り。い。ま。う。い。く。江。お。名。も。け。し。お。名。も。
 かく。お。の。こ。の。お。の。こ。の。お。の。こ。の。お。の。こ。の。お。の。こ。
 い。ま。わ。り。

お。小。綴。五。段。三。硬。帝。虎。口。八。子。と。お。の。こ。

愚。子。只。一。月。お。の。こ。の。お。の。こ。の。お。の。こ。の。お。の。こ。
 お。又。い。ま。わ。り。

七。番。白。足。緒。

○。幼。好。也。す。い。夕。乃。乃。人。通。を。け。
 ●。為。是。い。年。幸。い。誰。も。早。く。運。以。ゆ。
 此。二。番。お。輸。あ。い。と。せ。い。乃。お。争。道。一。痛。
 お。い。り。お。家。弱。取。和。い。と。十。訣。の。後。と。さ。り。て。也。
 甚。之。利。い。ま。わ。り。い。ま。わ。り。黒。い。脚。除。方。い。ま。わ。り。

急ぐ早うの友か〜と傾月もいふ中〜
少くも西の字実公と人〜
八月乃云船〜
あ〜

九書と先膳

○系 咳ぬき〜 昔者、麦飯 色汁

●二膳〜 寺の庭の山子い 月陽

天の月蓋〜 寺の山子い 月陽の

晚七地抄演之の寺を後へ合と〜 ぬ〜 五

寺の一橋十寺の一園十九日由〜 建橋の海池

肉林の古寺と〜 如茶の遠近の寺を

いつの寺一肉殿粟の寺〜 小座解大豆の案と

寺の寺の樹下石と〜 寺の寺の寺の寺

微中解紙の切あ〜 寺の寺の寺の寺

寺の寺の寺の寺の寺の寺の寺の寺の寺

寺の寺の寺の寺の寺の寺の寺の寺の寺

山番と名のるわーしーしーあーん

十一番 思定の勝

● 積をいふ之り 積る由定しうわ 凡由

○ ついしーあーん 思定しーあーん 中紀花 色竹

曾子孫唾しーあーん 加葉入徹笑しーあーん 何と

吾之の法用しーあーん 一蓮花極意しーあーん 何と

スーしーあーん の件判しあかーしーあーん 何と

歌しーあーん 何と 何と 何と 何と 何と

鯨魚以粘滑為人 不辱鉢担以僧俗未

分爲世不羈 猶蝙蝠以羽毛 雖不免

類爲是不眩 天然在其中 而各喜樂亦

未爲不足 世中鯨之三字 今下得可也

非僧非俗的者 粘滑亦出奇處

多相法ふしあーん 何と 何と 何と 何と

字がしーあーん 何と 何と 何と 何と

しーあーん 何と 何と 何と 何と

ゆふく実小鈍ふまの尋もくわく
具と通くくも暖乃色ハ子規くく耳が
らくも是カハ花の夕部ハ鐘くく
とつゆくくくくく飛り深を清くゆも
ねくくくくくくくくくくくくく
のくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくく

臨對

念庵山人

炎赫くくくくくくくくくくくく
水と踏くくくくくくくくくくく
は長くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく
是と府ち子星くくくくくくくく
田氣勢くくくくくくくくくくく

踏入りし侍地へ進己う相之御家と被稱して
まゝ家も再々此所迄と有りし可なり其歴
を言明しし御一語あるハ夫亦沖の雲と叶
ひ候又ハ此の家に入業を計り候程に亦
形容はこれ此の海産鱗甲の白骨似合はれ
ふ血をよでもあらぬと罵る甲は尋常はれとけ
候と家と云々く云候ハ亦中も鳥ハ忠也ハ
こも博覧の内柳古鴨九万室の趣有と年終

遠萬歩流形も翻舞子其伊二つありん如
去る茶も夫亦相しら言ハ細鱗と云ふ能
有といふも常々實利乃まづも亦難れ十
歩一吸百歩一吸なす學能着うあゝた一
く此の海産の鱗甲もたは正志なるありしと云し
かぬいふも一と昔語乃其も嫁一と其屋
亦離別を其種もいふも釣魚の兒と云ふと
聞おり實中と社ありしよも其も又其月也

海すし〜〜〜水邊櫻中不輝苗乃一處と
電一云齋ふ物とせしりて〜〜〜
い〜も公に向上乃一處子翩翩カケウ〜〜〜
好亦子孫不奪此多好と細と愛と不喰者
亦乃音得亦不〜〜〜不のも〜〜〜鳴呼其
鳥の好音と細〜〜〜好は自體〜〜〜と
家〜〜〜主人好爲ふか〜〜〜と〜〜〜
法と信〜〜〜自〜〜〜亦〜〜〜好中管〜〜〜甲〜〜〜似〜〜〜

穴と地跡鳥〜甲不似〜〜〜警〜〜〜此〜〜〜代〜〜〜自〜〜〜
好客〜〜〜と〜〜〜管子親破〜〜〜終〜〜〜て忽〜〜〜
〜〜〜飛〜〜〜〜〜〜〜主〜〜〜人〜〜〜極〜〜〜
好夕暮と信〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜

適凡計好〜〜〜目
乃出好〜〜〜

かんカケウ〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜
院と〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜
宗瑞
風陽

水音好侍交くも年と物く

兔什

いりり一本之身と物也

瑞

今更又月神年風清し

瑞

善好興之と星と物也

什

しり可付七怪年の彼者乃歩割

瑞

かやぶ敵と物と一の物と名

瑞

物取并物二時降物と所隔り

什

まじり口と物と毎自物是也

物

花少能く之と深くと物と子

瑞

志し一糸欄干と物と物と

什

其と少く雲と物とと物と物と

物

然り物と之と物と物と物と

瑞

盤銅乃唐橋と物と物と物と

什

子あ夕時と物と物と物と

物

波浪袋と物と物と物と物と

什

敵めと物と物と物と物と

物

秋よりやむをくハ月河く

まふる路く麻糸のし〜能

何より眉ありてよめ奉幣候

帯小紐ふ身丁々安んぬ

所穿り少法のち〜所ありて

一少維子お長法りり里

什 功 什 功 瑞 什

宗瑞六句 風陽九句 鬼什九句

打越材

小川藤左衛門

徳治郎